

## 支部長挨拶



支部長 加澤 正樹 (昭和48年法卒)

今年の首都圏支部総会には約50人の参加者がおり、うち平成年代に限ると15人（交流会のみの2人を含む）で、昨年の2倍でした。形式的な議事は簡略に済ませ、石井副支部長の「深海のアース開拓」という文系出身者は思われない科学の夢にあふれた話題で、我が同窓会の人材の多様さが実感されました。

コロナ禍で、21年は中止、22年は福田リユーナル（株）会議室を借りて実施（この年から会場とWeb参加のハイブリッド方式導入）、これ以降、23年からは東京新潟県人会館（上野）を利用し、今回の24年総会を迎えました。最初は場所が分かりにくく不便な思いもしましたが、ようやく慣れてきました。

この間、主要役員の交代があり、長年ご苦労をおかけした会計担当の堀さんが退任されて、コロナ前から残っているのは支部長の私と、事務局長の成田さんの2名だけになりました。難しくなりました。そのためここ10年くらいは若手会員の増強対策が最大の課題でしたが、有効な対策が生み出せず活動参加者の高齢化が進

みました。

こうした問題への対策として、理事会レベルまではWebによる連絡を通常手段とした、支部会報青松の会員ボランティアによる発送作業を止めると共に会報の発行回数を年一回とした、青松を補完する広報手段とすべく同窓会通信の編集を平成年代の若手会員に任せたなどの対応をしました。

また、支部会費納入をQRコードで行えるようにするなどの連絡手段のWeb化と事務作業の負担省力化を進めております。

高齢の支部会員の方々にとつてはご不便をおかけすることになるかもしれません、必要不可欠な変革と考えております。

当支部の繰越金を除く実質会計規模は、約200万円ですが、会報発行費、Web化による通信費等の縮減が定着すれば今後は予算に若干のゆとりが生まれるかも知れません。

来年度からは、首都圏五十嵐会の活動の拡充に加えて、首都圏支部若手会員と現役大学生との交流という若手会員の活躍の場を設定した新規事業を立ち上げたいと思つておりますので、皆様のご支援とご協力を願っています。

# 青松

新潟大学  
人文・法・経済学部  
同窓会  
(略称) 青松会  
首都圏支部 同窓会報

第38号 (2024年10月発行)



編集責任者 岡小夜子  
事務局 成田浩  
〒179-0083  
東京都練馬区平和台3-1-7  
コスモジール氷川台403号  
e-mail : seishoshutoken@gmail.com

## ●令和5年度 事業報告

事業計画	
5月13日(土)	第1回理事会 開催 来場 20名 + WEB 3名 会場：東京新潟県人会館
5月14日(日)	青松ウォーキング(第91回) 石神井公園界隈 計12名 参加
5月19日(金)	青松芝楽会 紫カントリークラブ 13名 参加
6月24日(土)	第23回 総会 来場 29名 + WEB 5名 + 来賓・講師 3名 会場：東京新潟県人会館
9月3日(日)	青松ウォーキング(第92回) 江戸川橋界隈 計9名 参加
10月7日(土)	第10回 首都圏五十嵐会 20名 参加 会場：TKP新宿カンファレンスセンター
9月下旬	青松37号発行(1985部)
11月25日(土)	第2回理事会 開催 来場 19名 + WEB 2名 参加 会場：東京新潟県人会館
3月3日(日)	青松ウォーキング(第93回) 桜台～練馬駅界隈 計12名 参加
その他	常任理事会(年4回程度) 同窓会通信を配信(毎月5日前後)

## 令和6年度総会報告

事務局長  
成田 浩  
(昭和58年経済卒)

6月29日に湯島の東京新潟県人会館で総会を開催いたしました。加澤支部長の挨拶でも触れた通り、来場参加者は50名に増え、昨年から大幅に参加者が増えました。

さきの常任理事会や理事会においても、周りの会員に声掛けをして、参加者を増やそう、ということで、その成果が表れました。会員、理事の皆さんに感謝いたします。

まことに、お忙しいところ新潟からお越しただきました。誠にありがとうございました。

来賓の溝口経済科学部長から改編した「経済科学部」の報告があり、特に経済学部の運営、学生の活躍が、学部の運営、学生の活躍の為に首都圏支部の協力・支援を求めるご挨拶を頂きました。

高木会長からは首都圏支部が中心となって各支部と連携を図り、同窓会の更なる充実に貢献してほしいとの期待が述べられました。

また、ご来賓として溝口経済科学部長と高木同窓会本部会長にもご列席いただきました。お忙しいところ新潟からお越しただきました。誠にありがとうございました。

議事に入り、昨年度の活動報告、今年度の活動計画や予算等の議事を滞りなく終えました。議事終了後、石井正一さん（昭和48年経済卒）より、現在ご本人が中心となって推進している国家プロジェクトの「深海の資源開発と海洋ロボティクス技術」についてお話し下さいました。国家の重要な課題であるアース開発と海洋ロボティクス技術についてお話し下さいました。

く、特にWEB参加の会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。お詫びいたします。総会終了後は懇親会会場に移動し、にぎやかに会員同士の交流を深めることができました。特に今回初めて参加していただき、若い会員との交流は大変新鮮でした。

若い方に魅力的な総会・懇親会にて承認された令和5年度会計報告での収入は、5年度会計報告での収入は、2,833千円となり、予算比では87千円の収入不足でした。一方、支出合計は2,833千円にて、決算報告が承認されました。

上した予備費として646千円を計上し、支出合計は2,866千円が認められました。これを受けました令和6年度の予算の収入合計は2,866千円といたしました。

特に、今年度は、首都圏近郊の支部間交流を活発化し、支部間の連携体制を強化する方針を策定しております。信の効率化につきまして、ホームページを作成し、会報や通信の閲覧、会員情報の登録・変更、会費のクレジット決済もQRコード利用で可能となるシステムの導入をすべく、「らくうるカード」との契約を実施する方針の下で、新しい同窓会運営体制への移行が承認された予算となっております。

同窓生として大変誇らしく思いました。今度の石井さんの更能るご活躍をお祈りいたします。但し、会場のプロジェクトマイクの設定がおもわしくな

## ●令和6年度 事業計画

事業計画	
5月11日(土)	第1回理事会 来場参加15名、WEB3名 会場：東京新潟県人会館
5月21日(火)	青松芝楽会 第20回記念大会 参加12名 藤ヶ谷CC
6月29日(土)	第24回 総会 参加50名、WEB7名 会場：東京新潟県人会館
10月26日(土)	第11回 首都圏五十嵐会
10月上旬頃	青松38号発行(約2000部)
11月中旬頃	第2回理事会
その他の活動	常任理事会(年4回程度) 同窓会通信を配信(毎月5日前後) 他支部との交流 6/22(土) 12時～ 栃木県支部総会 成田参加 7/19(金) 18時30分～ 長岡圏域支部総会 加澤参加 7/20(土) 11時～ 長野県支部総会 石井参加 9/14(土) 16時～ 群馬支部総会 加澤参加

やはり総会は同窓会の最も重要な行事ですので、来年も本年以上にさらに参加者、特に若い方の出席を促していくよう皆様のご協力を頂きますようお願いいたします。今後もどうぞ同窓会活動に積極的にご参加くださいますようお願いいたします。



## ●令和5年度事業決算(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

《収入の部》 (単位:円)				
項目	予算額	決算額	差額	摘要
前年度繰越金	1,016,715	1,016,715	0	
本部助成金	1,200,000	1,200,000	0	
年会費収入	300,000	281,000	-19,000	
参加費	230,000	335,500	105,500	総会参加費・理事会参加費
預金利子	1	3	2	
合計	2,746,716	2,833,218	86,502	

## 《支出の部》

項目	予算額	決算額	差額	摘要
支部会報発行費	440,000	440,112	112	印刷費、発送費、その他事務経費等
年次総会関係費	500,000	728,785	228,785	印刷物発送費、会場室料、その他経費
若手組織化・同好会等事業費	140,000	145,185	5,185	ウォーキング、芝楽会、若手組織化等
理事会関係費	250,000	280,840	30,840	会場室料、交通費、その他経費
事務経費等	600,000	372,124	-227,876	事務経費、パソコン購入費等
次期繰越金	816,716	866,172	49,456	
合計	2,746,716	2,833,218	86,502	

理事会の再任、  
理事会の再編について  
総会で報告した通り、コロナ禍もあり2年毎の理事再任手続きを中断していましたが、ここ数年、理事会の出席者がほぼ固定化しており、加えて、応答の無い又は連絡不可の理事も多く、本年度中に再任の意向確

成田 浩  
事務局長  
(昭58年経済卒)

認めを実施することにいたしました。  
また、このままでは理事の人数が減少の一途なので、同時に並行して若い世代を中心に理事の新任をお願いすることといたします。

理事の再任、新任手続きを本年中に実施し、次年度の総会において理事会の再編について決議することといたします。

特に、同窓会活動が高齢者の集まりでは、将来の継続性が確保されない窮地に陥って来ておりますので、総務担当として、手育成活動などに、精力的に取り組んで参りたいと考えております。

但し、現在の内閣府の職務が2028年3月まで、まだ4年間ほど継続しておりますため、できる限り今までのようなご迷惑をお掛けしないように心がけ

新しく会計担当に佐々木さんが就任して戴きました事で、加澤支部長のご配慮にて会計担当から総務担当になりましたので、今年の新しい活動としての周辺支部との交流の活発化や若手育成活動などに、精力的に取り組んで参りたいと考えております。

私は三年前に会計担当理事を退任しております。退任後事として会計の事務処理だけを委任を受けて行っておりました。

今までの会計担当におきましては、十分な職務執行ができるはず、堀さんをはじめ皆様に、大きな迷惑をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

この度の総会で、今までの会計担当の副支部長から、総務担当に職務変更を行つていただきました。

### 総務担当として

石井 正一  
(昭和48年経済卒)

て、総務担当業務を担わせて頂きますので、何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

### 会計担当を退くにあたり

堀 敏雄  
(昭和46年経済卒)

私は三年前に会計担当理事を退任しております。退任後事として会計の事務処理だけを委任を受けて行っておりました。会計を担当していた期間は、合わせて7年になります。今般新会計担当理事に会計事務の引継ぎを完了しましたので退任のご挨拶をさせていただきます。

私は、後期高齢者ではありませんが、現役で週5日働いております。会計担当就任のお話をいたしました。しかし、会計担当が空席になると首都圏の同窓会活動を休止せざるを得ないと説得され、引き受けたものであります。

お金を使うのですから、細心の注意をもつて行うことは当然のことです。しかし最も注意して取り扱ったのが会費納入者一覧の取り扱いです。会費を納めていたいただいた会員の名前を会費納入取扱書から転記するのです。が、当時は会費納入取扱書のコピーが郵送で来ていました。途中でゆうちょ銀行の効率化の一環で全てメールで来るようにな

更になり、高齢者にとつては大変に読みにくいものになつたのです。名前の間違いでお叱りを受けましたが、間違ったことがないように判別しにくく、以前はほかの理事にメールで確認したりして注意してやつても名前の間違いでお叱りを受け、大変申し訳ない気持ちになりました。

又、納入書の通信欄に、奥様から「主人は亡くなりましたので、次回から会報の郵送をご遠慮申し上げます」という文章で1年分の会費の納入があつたことが、毎回ありました。大変頭の下がる思いをしました。又、毎回あるのが高齢のため「次回から会を脱退しますので、会報を郵送しないでください」という通信です。考えてみると、首都圏同窓会と会員をつなぐものは、勿論総会がありますが、ほかにはありません。会費納入取扱書の通信欄を活用し、会員の意見等を吸い上げたりして、自由な意見の言える場にすることで活動の活性化ができるのではないかと思います。会計業務を離れましても、できるだけ同窓会活動に協力していきたいと考えておりますので、7年間の会員の皆様のご協力に感謝し、退任のあいさつとさせていただきま

### ●令和6年度事業予算 (令和6年4月1日~令和7年3月31日)

(単位:円)

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	866,172	
本部助成金	1,200,000	前年度実績分
年会費収入	300,000	300人×1,000円
参加費	500,000	総会・理事会参加費 延べ100人×5,000円
預金利子	3	前年度実績分
合 計	2,866,175	

### 《支出の部》

項目	予算額	摘要
支部会報発行費	550,000	印刷費、発送費、その他事務経費等
年次総会関係費	850,000	印刷物発送費、会場室料、その他経費
若手組織化・同好会等事業費	340,000	ウォーキング、芝楽会、若手組織化等
理事会関係費	280,000	会場室料、交通費、その他経費
事務経費等	200,000	常任理事会打合会費・事務経費等
新規事業活動費等	646,175	支部間交流費、QR決済システム年間費用等
合 計	2,866,175	



会計就任挨拶  
佐々木 覚  
(平成4年法卒)

この度、会計担当理事に就任しました平成4年法学部卒業の佐々木 覚と申します。微力ながらも、若手増強対策や事務の効率化等、当支部が直面している課題に対応しつつ、皆さまの大切な資産を保全していく会計処理を心がけていきたいと考えております。

前任の堀さまにおかれましては、詳細な引継ぎを行つていただき、今まで相当な分量の事務処理をやつてこられたことも理解し、今後遺漏なきよう業務を実施して参る所存です。

事務の効率化につきましては、会費納付の方法について、従来のゆうちょ銀行の振替納付に加え、スマートフォンによるQRコード決済（クレジットカード方式）を導入することに考えております。

また、限られた予算の中ではあります。が、小規模なホームページを開設し、メールマガジンの掲示やイベントのご案内等に活用することも考えておりまます。こちらもシステム開発の素人ではありますが、情報発信や交流の促進につなげていける

様、努力していく所存です。  
何分、慣れない中で相当な事務量の業務を引き継ぎますので、不手際等もあるうかと思ひますが、上記を中心に本支部の発展に寄与していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

## 青松芝楽会 第20回記念大会実施報告

森宗 幸夫  
(昭和44年人文卒)

5月21日藤ヶ谷カントリークラブで第20回記念大会を開催しました。2010年8月30日に第1回大会を実施して以来、コロナ休会もありましたが年2回を原則に今回第20回大会という節目を迎えることができました。発足当初はどこまで続くか予想もつきませんでしたが、なんとかここまでたどり着けたのも皆さま方のご支援・ご協力の賜物と感謝しております。これまでに延べ約360名様が参加され11名の優勝者を輩出し、支那部同好会として会員相互の親睦に少しは寄与できたとの思いを抱いております。

今回は記念大会という事もあって、「団体戦」や歴代優勝者による「グランドラチャンピオン戦」という新企画を取り入れました。「人・法合同チーム」と「経済チーム」に分かれてしまふことを削りましたが、第1回



回記念大会は名門中山カントリー倶楽部での開催でしたが、村山弘義（34年法卒）会長が当日になつて欠場（公務）というハピニングで幕開けし、優勝は遠路はるばる新潟から駆けつけていた小柴昭英（34年経済卒・同窓会本部副会長）さん

という忘れ難い大会となりました。勢いをかけて小柴さんは第2回大会も連覇し首都圏勢を大いに悔しがらせたものでした。

楽しい思い出はたくさんあります。が今回の二十歳の成人（式）を期に、新しい体制に移行します。次回秋の大会からは新しい

## 青松ウォーキング報告

石黒 清  
(昭和41年経済卒)

95回目となる青松ウォーキングは予定していた6月2日が荒天のため順延とし、翌週の9日

に実施しました。

今回は、以前青松芝楽会がゴルフコンペで利用していたゴルフ場のある若洲海浜公園を「東京ゲートブリッジ」まで歩こう

という企画です。

集合場所の新木場駅に集まつた参加者は9人。新木場駅から若洲ゴルフリンクス前までバスを利用し、バスを降りて東京湾から吹く潮風を感じながら若洲海浜公園のサイクリングロード

沿いにのんびりお喋りをしながら歩きました。

左手には葛西臨海公園の大観覧車やディズニーランドを右手にはゴルフを楽しむゴルファーの姿を見ながら歩き続けました。

公園をグルっと巡つて4.5km。岬を回りきると「東京ゲートブリッジ」が見えます。

2頭の恐竜が向き合うような形の「東京ゲートブリッジ」は

近くで見ると圧巻です。

橋の袂にあるエレベーターで昇つて、橋の三分の一まで歩いてみました。

高層ビル群、大井埠頭のガントリークレーン、スカイツリーなど眺望が楽しめました。

歩き終わった後は新木場駅に戻り、駅近くのお店で完歩を祝して賑やかに乾杯。

次回は9月22日を予定しています。

多摩モノレールの柴崎体育館から根川緑道沿いに谷保天満宮まで歩くコースを計画しています。

同窓生ご夫婦での参加も大歓迎です。過去に15組の同窓生ご夫婦の参加があり、青松ウォーキングは同窓生の親睦を超えて賑やかな交友・親睦を図る場になつてゐるようです。

（写真は東京ゲートブリッジ前で…撮影石黒）

左手には葛西臨海公園の大観覧車やディズニーランドを右手にはゴルフを楽しむゴルファーの姿を見ながら歩き続けました。

公園をグルっと巡つて4.5km。岬を回りきると「東京ゲートブリッジ」が見えます。

2頭の恐竜が向き合うような形の「東京ゲートブリッジ」は



## 総会に参加してみて

青海 将弘(平成23年法卒)

東京では仕事や趣味と関係ない繋がりは殆どなかつたのですが、世代関係なく新潟大学という共通の土台を基に様々なお話しでき嬉しかつたです。多方面でご活躍中の先輩方のお話はとても刺激になりました。ありがとうございました。

小原 弘(平成5年法卒)

石井先輩のメタンハイドレートのお話、とても興味深く拝聴しました。気になる埋蔵量やコストの話も後でお聞きする事ができて良かつたです。

懇親会ですが、目の前に座らされている大先輩に恐る恐る話しかけた所、なんと前いた会社の大先輩! 共通の知り合いも多くの方々とお話を事ができた事も、ありがとうございました。

平成卒の比較的若い世代の方々も各方面で頑張っていますね。刺激になりました。

帰宅した後に、大学時代に

入っていた部活(ギター部)のOBはないのかな?と思いま同窓の先輩と判明し、今回お説いていただきました。

東京では仕事や趣味と関係ない繋がりは殆どなかつたのですが、世代関係なく新潟大学という共通の土台を基に様々なお話しでき嬉しかつたです。多方面でご活躍中の先輩方のお話はとても刺激になりました。ありがとうございました。

富田 幸男(平成6年法卒)

茨城出身東京在住の私にとって新潟との縁を繋ぐためにも参加させて頂きます。頑張れアーリビレックス!(野球も女子サッカーもバスケも)

## 法学部賢人会議報告



株式会社三菱総合研究所  
安藤 幸治  
(平成5年法卒)

金融機関に30年勤務後、現勤務先に転籍した頃、法学部同期で商法・会社法の故小島康裕先生から紹介を受け、法学部賢人会議にて講義する機会を頂きました。7月16日に母校を訪れての講義について、僭越ながら筆を執りご報告申し上げます。

小島先生の講義感想として、就職活動する自分の姿と重ねて失敗を恐れずチャレンジしてみた。特に、私が学生時に故小島康裕先生から頂いた「18や20歳で人生は決まらない」という

を現在の学生向けに置き換えたメソセージ、②学生の事前アンケート希望の営業については金融機関勤務の最終10年間に亘り企画運営した技術連携支援業務とリカレント教育、③最後は学生からの質問に答える内容でした。

技術連携支援は通常の銀行員では接点がない大企業の技術者と共に創する先端技術開発に関する業務であり、組織として実績の無い業務推進チャレンジと志の持ち方、そこから見える日本企業の組織的課題などに触れました。公務員希望の学生も多く、将来の期待したいイメージとして地方創生・産学連携に於ける官民の役割もお伝えしました。

リカレント教育(学び直し)は、10年間続けた業務の自己検証の学び直しで受講した民間企業の経験を活かした大学教員養成目的の「産学連携教育イノベータ育成プログラム(東北大学)」の経験を通して、一択しかない人生ではなく時期・老若男女関係なく選択肢は多様にあることをお伝えしました。

学生の講義感想として、就職活動する自分の姿と重ねて失敗を恐れずチャレンジしてみた。特に、私が学生時に故小島康裕先生から頂いた「18や20歳で人生は決まらない」という

都圏では良い意味で稀有な存在で首都圏の学生に気後れする必要はない」という私自身の経験に感じたこともあつたようでした。私自身も自分の経験を整理する機会となり、学生から言葉を頂いたことで多くの気づきを頂きました。

講義後、私が入部していた法律相談部の学生の皆さんとお会いして法律相談会開催の広告費用高騰の苦労や新入生部員が二桁台となり期待があることを伺いました。法律相談部の卒業生とネットワークが無いとのことでしたので相談にのつていただきたいと考えています。

末筆ながら、サポート頂いた法学部の上村都法学部長、河野志穂先生、関係者の皆様、学生の皆様に心より感謝申し上げます。



日刊工業新聞社  
川瀬 治  
(平成6年経済卒)

新潟大学法学部2024年度前期特殊講義「賢人会議」で5月7日に非常勤講師として登壇させていただきました。「政策・報道の現場から」をテーマに話しました。私は現在財務省、内閣府、金融庁、国税庁、首相官邸、国会、自民党などを経済紙のゼミでの学びと就職活動経験

としております。報道現場から見たメディアの実情や政府の経済政策、日本経済の行方などについて日頃感じていることを述べました。

学生の皆様からは「新聞記事の構成はパトーン化されているため書くためには文章力は必要ないと聞いて驚いた」「新聞原稿の書き方は法律の三段論法に基づく事例記述の方法と似ていますが、法学部で学んだことを活かせる仕事の一つではないかと感じた」「第一次情報源とのアポインツを取ることができれば取材の8割は完了すると聞いて、営業活動で決裁権を持つ方に直接商談をすることができれば受注につながる点と似ていると感じた」などといつたご感想をいただきました。新聞記者の仕事は特殊な仕事のように思われがちですが、新聞記者の仕事のノウハウは一般の仕事にも役立ちます。

一方、インターネットの普及などで「若者の新聞離れ」が進んでいると言われていますが、新聞はビジネスや研究などに欠かせない貴重な情報源であります。なぜ新聞が読まれないのか。新聞は朝刊で約20万字の文字量、新書2冊分の情報量があり、1日に数時間もかけて新聞を読む時間をお持ちの方は少ないのではないか。講義

# グループラインを作ります

ぜひ、ご参加ください！

平成5年法学部卒、小原弘と申します。

先日、首都圏支部総会に初めて参加しました。つい最近、首都圏の同窓会が存在する事を知り、同窓の方々とお話しできて良かったと思います。SNSが普及している時代ですので、少し連絡を取りやすくしておくと、何かと便利で交流も深まるのではないかと感じました。

早速、LINEで「在京新大同窓（文系HR卒）Gライン」として若手のグループを作りました！が「在京新大（文系）同窓みんなのGライン」全員参加できるグループも作って交流できればと思い、青松に掲載させて頂く運びとなりました。

下記に在京同窓生のみなさまが参加できるグループを作成し、LINEのQRコードを掲載しております。LINEをお使いの方であれば、下記QRコードを読み込み→タップ→出てきた画面にある「参加」をタップで参加できます。みなさま奮っての登録、ご参加お待ちしております。若手交流の場である首都圏五十嵐会の情報や、大学のトピック、新潟の地域情報などもお伝えしたいと思っています。



※平成・令和卒の若手メンバーの方は左記IDを友だち検索で検索して友だち申請（申請の際、卒年・学部と名前を添えてください）頂けますと、若手同窓メンバーのグループにも登録できますので、こちらにも奮ってのご参加、お待ちしております。  
※他、QRコードでの参加が上手くいかなかった場合も左記IDで申請してみてください。

ID:miraichallenge

※ QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

この原稿の締め切り時には会場その他の詳細は決定してなく、記載しておりませんが、ご参加ご希望の方がいらっしゃることが少なく貴重です。弁理士の仕事はなかなか触れただきます。

★ 今どきの新潟のニュースや話題  
★ 活躍する同窓生のご紹介など  
★ 大学や同窓会本部に関するニュース、HPやFacebookなどの記事の紹介

★ 同窓会の企画のご案内（ウォーキング、ゴルフ、講演会、交流会、懇親会など）  
★ 首都圏支部では、毎月5日ごろにメールマガジンを発行しています。主な内容は次の通りです。  
★ 首都圏支部事務局からのお知らせ

メールマガジンを  
発行しています



メールアドレス：  
seishoshutoken@gmail.com



総会



配信アドレス：  
jhk3stknku@yahoo.co.jp

では「新聞は10分で読める」と強調させていただき、「新聞は全部読む必要は無い」「読む順番は関心のある情報から先に読む」「新聞を読むコツは見出し、各面から『ナナメ読み』などといった私なりの新聞の読み方を披露させていただきました。新聞はキーパーソンという「

次情報源」に実際に記者が取材して、複数人が確認した上で発行しております。SNSの影響力が増す中で、新聞の信頼度の高さを皆様に実感していただければ幸いです。今後も同窓会活動を通じて、皆様と対話をさせていただき、とで勉強していきたいと考えて

## 若手世代交流の場（首都圏五十嵐会）の開催について

事務局長 成田 浩  
(昭和58年経済卒)

おります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会首都圏支部のメールアドレス宛に五十嵐会参加希望と件名に記載してメールしてください。追つて詳細をご案内いたします。

考えております。メールマガジンを受信希望の方は、左記のメールマガジン配信アドレスまでお知らせください。また、記事や投稿も広く募集しておりますので、情報がありましたら同アドレスまでお願いします。